

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年2月26日

事業所名

えびす夙川

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	(3)	・活動スペースを3場面設定し、その他にもプライベートスペースを確保できている ・プログラム別に時間帯を区別することで、1時間帯あたりの人数が過密にならないようにしている	・場面ごとに、自立を促すような構造化および視覚的な支援はまだ不足しており、改善の余地がある
	2	職員の配置数は適切である	4	1(5)	・有給休暇予定日などには、互いに理解し合い、シフト調整の段階で、追加で従事予定するなどの調整をおこなっている ・できるだけ、管理者が直接支援業務を担当しなくても運営できる体制をつくっておき、急な欠勤等が発生した場合に体制に入ることができるように努めている	・職員が急な欠勤や遅刻等になった場合に、余裕のある体制であると言い難い ・数は適切であるが、利用者や活動内容により、過不足がある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2(4)	・身体が不自由な利用者およびご家族が来所の際は、手すりを利用し階段を下りられるように介助や見守り等を実施している	・敷地入口部の階段の解消ができないため、特に下肢が不自由な方が来所される場合は、介助が可能となるような体制を維持する
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1(6)	・各日、事前と事後のMTおよび個別打ち合わせを適宜実施している ・業務面では、管理者に情報を集約するために、ダイレクトのチャット等を活用して職員の意見を把握したうえで、論点やある程度の方針を見据えて、複数人参加の場で提案するなどをおこなっている	・経験値やスキルが多様な職員を配置していることから、全員での場の活性化は難しい現状である →職員としての業務に関するPDCAを可視化意識化できるフォーマットを検討する
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	1(3)	・毎年必ず保護者向け評価表を実施し、その結果を職員と共有し、課題や対策を検討している	・義務化されている年1回以上の実施はできておらず、またこの形式(WEB記入回答)で回答がしづらい、声を上げづらい保護者等から、インタビュー形式で意見を把握するなどが必要である
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	(2)	・ホームページで全職員の評価を含めて公開している	・ホームページでは公開しているが、保護者に対して、積極的な説明の機会をつくることができていないため、今後まずは保護者に対して公開の周知を実施し、問答できることで、より安心して利用を継続してもらえるように努める
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	1(6)	・西宮市児童通所事業所連絡会(通称:西児連)の相互評価活動には継続的に参加し、そこで受けた他事業所からの評価や他事業所の相互評価に参加した際に得たヒントは改善につなげている	・今後はより多角的な外部評価や、制度改定後の評価方法を活かして業務改善につなげ、積極的にそれを公開する
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2(4)	・前提として、職員の入職時点での経験値やスキルに差がある。その現状に対しては、まず、理念や大切にすべき価値観や視点など目的や方向性については、全体および個別に重視して共有している ・そのうえで、事業所としては、実施を義務とされている研修以外については、原則として、必要なタイミング(各職員が必要であると自覚し学習したいという動機がある)で機会を提供できるように努めている	・職員から全体での「研修」という機会を求められている実際もあるため、適切な職員を複数参加により議論や確認が必要である場については集合対面形式で実施していく ・基本的な知識の学習機会としては、動画や外部機会の情報や機会の提供をより積極的に行い、支援の質の維持と向上に努める
9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	3	・プログラムにおいても、積極的に本人の現状を正しく理解するためのアセスメントを目的としたプログラムや視点も取り入れて、次回以降のプログラムに反映させている	・プログラムを企画するトレーナーに依存し、情報が可視化されずに前提の理解不足になることが課題である。より可視化できるためのツールを導入するなど、一定の共通認識を事業所内でもつことに努める	

10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	1	2(7)	・条件に不純物をはさまないような、標準化されたツールでアセスメントを行うことは、検査ではないトレーニングの場では難しいケースもあるため、標準的ではないにしても、類似のアセスメント機能を持った遊びを提供し、結果を観察するケースが多い。	・新規利用者に対しては、M-SPAなどの尺度を参考、活用して簡易の評価をおこなうことを検討する。
11	活動プログラムの立案をチームで行っている	2	1(7)	・実際には、プログラムを立案するメイントレーナー役の職員に依存している。そのトレーナー同士ができるだけ意見交換できることで、既存のプログラムの応用が広がり、過去類似のプログラムを実施した際の反省や振り返りから他の職員が意見を表明しやすい機会となっている	・企画から実施、そのための準備やフォローまで、職員がそれぞれの得意を發揮できる機会を検討して最終的にチームとして質の高い支援を提供することを想定する ・プログラム事前事後の場で立案につながる意見は集約しているが、チームで行なっている「感」が低いという意見が聞かれる。そのため、意見を表明できた「感」をもう少し重視して時間と機会の確保が必要か、もしくはそのツールの検討が必要。
12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1	・毎日の打ち合わせでみんな遊び等の内容を被らないように工夫したり検討したりしている ・学年、年齢、時期や子どもの状態に合わせ必要なプログラムが考えられている。また、そうしていきたい。 ・毎週取り組むプログラムの内容は変わっている ・教材集や去年のプログラムをただ反復しているわけではなく、毎年の利用者に合わせてかなり改良している。	・先行する外部サービスも積極的に試用し、より多様な参加(利用)者に対して、より選択肢を多く準備しておき、提供できる環境をつくることに努める
13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1(5)	・時期(学期始め、夏休み明け、行事時期など)に合わせて負荷を調整したり、季節感を出すプログラムにしている。	・時節に応じた注意点の共有などは行っているが、職員一人ひとりがそれを発想でき、可能性を出し合い検討し、設定できるチームレベルには現状では至っていない。 ・限られた準備等の時間において、それらを高めて合理的に実施できるように努める。管理者やメイントレーナー役の職員等にそれらの企画案やそのための気付きについてを集約し、具体的に進めていく
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	3	・計画を大枠で保護者と本人と同意しておき、毎回の参加の後にしっかり記録と、その参照により評価を行い、次のプログラムに反映させている。SSTについては、個別活動は少ない	・6ヶ月に1回更新となってしまっている支援計画をいかに实际的に有効なものにして運用していくについては継続的に検討をする。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	1(3)	・必ず打合せという手段にとらわれすぎず、出勤時間の違いなども考慮しそれ以前にも個別に確認できる機会や、当日、文字等でも当日の留意点の引継ぎにも工夫し試行錯誤している	・MTをやれば、参加すれば、理解や通じ合っているという幻想を排除し、いかに实际的にその日を想定して準備しておけるかに尽きる。役割分担については、分担を決めるということに固執しすぎずに柔軟に必要な状況に合わせて、互いにリーダーシップを發揮して職員の安心をつくる
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	3	・必ず対面という手段にとらわれすぎず、当日は随時、かつ過日も振り返りを次の支援に繋げられる仕組みを工夫し続けている	・できているときと難しい時があるように感じる。フィードバックなどは特に丁寧に関わった職員一人ひとりからその人がみた視点と考えを知りたい。それを次の日プログラムや今後で反映させていきたい。 ・共有はできているが、改善や活かせていない、しているが時間が足りない時もある、という意見もある。どちらかという職員を主語にした振り返りや話を表出できる機会としての目的の場が必要であり実施したいと考えている
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9	1	・行動の前後の状況、発生状況などを細かく検討、記録している ・過去のデータと比べた際に細かい変化やその前後の状態や脈絡などを考察、分析できるよう記録を行っている。	・そもそもなぜ記録をとるのか、何を記録するのか、を学習できる研修機会などがOJT以外にないため、支援ツールとしての記録作成能力には職員間で大きな差が生じている。 ・今後記録については、目的を細分化し、当日中に保護者に報告すべき事項や支援記録として職員が参照すべきことなどに分類する

	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6	2(2)	・基本的には、定期的な6ヶ月毎が大半となっており、一部保護者からの相談を機に、また事業所からの提案により支援計画更新までつなげている	・定期的には実施しているが必要に応じて随時できていない。大枠の計画書と別に随時更新確認できるようなツールの導入が必要である
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	7	1(2)	・まず本人がえびすに行きたいと感じ、思える機会とすることに重視し活動内容を企画する	・組み合わせで実施するというを前提にはできていない。今後、制度改定の内容を踏まえて公表して説明する
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1(3)	・必要に応じて、児童発達支援管理責任者に加えて、プログラムを単相する職員と同行する	・複数事業所に加えて学校が参加する機会が多く、日程調整に困難を極めている。日程調整をより適切にできるように、相談支援事業所と協議を進めていく
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	2(3)	・大半が保護者を通して行なっている。一部事例としてはある	・支援会議等の際に詳細には可能であるが、その機会がないとなかなか直接のやり取りではない。学校も最近はWEB等で情報を公開しているため、それらを積極的に活用している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	1	1(8)	・現時点では、対象児童の利用契約はないが、対象者がいれば、実施できる	—
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	(6)	・事例は少ないが個別支援会議等の機会を開催し、実施する事例もある	・今後はその連携にも制度的に評価がされることもあり積極的に実施していく方針である
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	4	1(5)	・事例は少ないが個別支援会議等の機会を開催し、実施する事例もある	・今後はその連携にも制度的に評価がされることもあり積極的に実施していく方針である
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1(6)	—	・西宮市児童通所事業所連絡会を通してのみとなっており、個別には今後検討が必要である
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6(4)	—	・実施ができておらず、今後本人や保護者の意向を踏まえて検討を進める
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	5	(4)	・西宮市児童通所事業所連絡会を通してのみとなっている	・西宮市児童通所事業所連絡会を通してのみとなっており、個別には今後検討が必要である
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	(3)	・送迎に来所する保護者に対しては、一定の説明を直接実施しているが、十分とは言えない	・記録の見直しに加えて、保護者の意向を踏まえて、内容を常に見直していく
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	5(4)	・今年度は実施できていない。過去、保護者向けの研修会等でテーマについて扱った実績はある	・実施するとすれば、テーマを明確にし、ニーズに即した参加者で実施することで保護者同士のピア関係も活用した場ができると考えている
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	(2)	・契約時に丁寧に説明を行っている	・改定の内容や不明点については十分なり買いにつながるよう、さらに改善が必要である
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	(2)	・随時の相談機会にくわえて、チャット機能等でも受け付けられる体制はあるが、十分とは言えない	・相談に応じる機会に加えて、保護者同士が話をし合える関係性が必要な肩に対しては、積極的にそのような機会を提供できるように企画する
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	1(6)	・今年度は実施できていない。保護者から他の場についての情報提供を依頼された場合は積極的に後方に協力する ・父母が集まる会のセミナー講師を積極的に引き受けている	・要望を聞き、企画を積極的に行う
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	1(3)	・迅速な対応はおこなっている	・迅速な対応はおこなっているが、すべてを本人や保護者に周知をできているわけではないため改善が必要
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	1(7)	・会報ではないが、必要な連絡は案件別に連絡周知している	・情報発信の形式や媒体については、保護者からの意見を聴取し、できる限りそれに応えられるような企画を実施したい
	35	個人情報に十分注意している	10	0	・管理や取扱を徹底している	—
	36	障がいのある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	(1)	・事業所対子ども、保護者に加えて、子どもと保護者の意思疎通についても慎重に情報を把握して各関係性が良好に働くように努めている	—

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3(4)	・学生ボランティアや実習生の受け入れを積極的に、おこなっている	・隣接するパン屋との協働イベントなど、地域の方々との企画はニーズは高いと認識しているが、実施体制が不足しており、今後継続的に積極的に実施できるよう体制を強化する必要がある
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	2	1(7)	・共有フォルダ内においていつでも閲覧可能な環境で周知しているが、活用と理解まではさらなる改善が必要	・職員に十分な理解が浸透しているとは言えない現状である。管理者の判断や個々のスキルに頼って実際は対応することが多く、現状ではそれで大きな問題はないが、今後それを普遍化できるようにマニュアル作成、にこだわらずに実効性のある状態を継続していきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9	(1)	・規定の通り実施している	・規定を超えて必要に応じて十分にできているかというところは不足がある。特に職員や本人、保護者の不安が高いことについては優先順位をつけて実施していく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6	1(3)	・義務として実施すべき機会は果たしている	・職員のスキルの高さに依存して、持続可能な体制や機会を継続できていない。特に職員の悩みや日常の議論などから個々に陥る可能性がある悩みや落ち込みをいかに未然に防ぎ解決していくかについて、研鑽の機会を上記研修の件と連動して実施していく
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5	2(3)	・現時点では、該当事例はないが、適切に対応が必要	・現時点では支援計画での説明にとどまっているが、特に本人への説明を優先して検討を進める
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2(5)	・現状食物を食べる場面はない ・保護者からの申し出に応じて対象を避ける等の対応に留まっている	・今後食物の提供を実施することも想定されるため、この点は、事業所として不足しており、職員の研修が必要である
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2(4)	・事例の作成はあるが、共有を十分にできていない	・都度、振り返りMT等での共有と解決となっており、事例集としての仕組みが稼働していないため、今後活用が必要である